

「新聞への意見投稿」 平成29年度掲載文の紹介

本校では、国語の発展的な学習として文章をまとめる力を育成することや若者の意見発表のよい機会として、新聞の投書欄への投稿を勧めています。今年度も、行事や学校生活への思い、日頃感じていることなどを投稿し、平成29年度には延べ25編の生徒の意見文が新聞各紙に掲載されました。

自分自身の考えを明確にして発信することは、自ら考え、判断し、行動する力の基盤となります。短い文章の中に、物事を正しくとらえた上で、感じたことや意見を表すことは、大人でもなかなか大変なことですが、掲載された文は、これらのことをしっかりと自分自身の言葉で表しています。ぜひ皆様もご一読いただければ幸いです。

※ 東京新聞「若者の声」 平成29年4月13日（木）掲載

いじめの傷は一生治らない 2年男子

いじめを行えば簡単に人を壊すことができる。小学1年、2年生の時、自分はいじめをうけていた。さらに4年生の時には一番の友達だった人からもいじめをうけた。あの時ほど悲しかった日々はない。

今はもういじめは受けていない。しかし、自分の中にはまだ傷が残っている。いじめによる傷は一生治ることはないのだ。今がどれだけ楽しくても関係ない。だが、いじめた側は違う。人を傷つけるだけ傷つけ、すぐに忘れていく。

いじめがなくなることはないだろう。なぜなら大人もいじめをするからだ。でも、減らすことはできるはずだ。いじめはいけないことと考える人が、世の中に増えていけばいいと思う。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成29年4月19日（水）掲載

「時間管理」身につけたい 1年女子

この前、私がお店でドリンクバーを頼んだとき、レシートには大人料金が書いてありました。そして、電車の料金もこの春から大人料金になりました。私は「小さな大人」になったのだと思います。しかし、まだ中学生なので、知識や経験が足りていません。だから私は中学校でさまざまなことを体験して、経験値を伸ばしたいと思っています。

中学校は毎日忙しいということを先生や先輩から聞きます。だから、私はこの1年間でスケジュールを管理する力を身につけたいです。部活に入ると勉強をする時間も減ってしまいます。そのためにテストの成績が下がることは避けたいので、計画を立てて行動できるようにします。

もう一つ頑張りたいことは、友達づくりです。今の中学校で新しくできた友達はまだいません。自分から話しかけることが苦手で、休み時間は一人ですっといまいます。なるべく自分から話しかけて、まずは同じ班の人から仲良くできればいいなと思っています。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成29年5月17日（水）掲載

「がんばろう日本」どこへ 3年女子

「東北だったから良かった」。東日本大震災についての前復興相のこの言葉を聞いたとき私は、驚きや悲しみ、怒りが込み上げてきた。

私は、被災者ではない。ただ、東日本大震災が日本という国で起きたことは紛れもない事実だ。だとすれば、震災を経験しなくても、悲惨さを想像することはできるのではないだろうか。私も想像することしかできないが、被災者の方々は、とても怖くてつらい体験をされたと思う。それでも前を向いて、苦難に立ち向かおうとしている。だから、私たちも被災された方たちと一緒に、復興に向けてがんばろうとしているのだ。

大震災直後に掲げられた「がんばろう日本」という、あの言葉はいったい何だったのかと考えてしまった。被災された方々ばかりでなく、国民全員でがんばろうという気持ちは今も変わりはない。

※ 東京新聞「若者の声」 平成29年5月18日（木）掲載

知識を蓄えて税に関心もつ 3年男子

大型連休中、茨城の祖母の家に行った。そこで、神奈川に住む伯母と久しぶりに会った。「東京都民じゃないけど、小池さんのことが気になるんだよね」と言う伯母。小池百合子都知事の行動力や発言力は、みんなの関心を引きつけるのだと知った。それから、築地市場の豊洲移転の話になった。伯母は「東京都はあんな大金を使えるからすごいね。ウチの方でやったら大変なことだよ」と言った。

確かに、全て税金だ。消費税以外の税金を払うことがない私は、身近な話とは感じていなかった。これから少しずつ知識を蓄えて、税金の使い道に関心を持つと思う。選挙権を得る4年後には、実行力がある人を選べる都民でありたい。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成29年5月18日（木）掲載

人の長所を見つける大切さ 3年女子

私には5歳の弟がいる。

その弟が先日一つの遊具を片付けずに他の遊具で遊び始め、母に注意された。その光景を見ていた父は、しょげながら片付けをする弟に「お片付けができて偉いぞ」と、声をかけた。

私はこのことに最初、違和感を覚えた。言われたことを実行するのは当たり前だと思ったからだ。注意された後ならば、なおさらだと思う。だが、父は片付ける弟を見てうれしそうに褒めた。私はふと、学校で行っている、みんなの長所を調べる「長所調べ」の一文を思い出した。「短所は見ようとしなくても目に飛び込んでくるが、長所は見ようと、聞こうとしないと見つけることはできない」というものだ。私はハッとした。まだ小さく、字も書けない弟は、もちろん私よりできることが少ない。そんな弟が一生懸命片付けをすることは、すごいことなのだとは私は再認識した。私は、弟の長所を見つけて褒めることで、弟を成長させようとした父の姿勢から学んだ。

※ 朝日新聞「若き世代」 平成29年5月19日（金）掲載

発車メロディー 全部聞けた 2年男子

JR山手線駒込駅の発車メロディーは、なかなか最後まで鳴らない。そのため、「音鉄」の僕は旅の時間が余ると、何十分も駅に居座ることがある。

発車メロディーは、車掌さんがホームにあるスイッチを押して流す。1曲分流れると1コーラス。停車時間が長く、曲が短い新宿駅や東京駅では、3コーラス鳴る時も。でも、駒込駅のメロディーは「さくらさくら」で曲が長く、停車時間が短いので、最後まで鳴らないのだ。

そんな駒込駅で発車メロディーを録音しようと電車にカメラを構えたら、「全部とる？」と最後まで鳴らしてくれた車掌さんがいた。鉄道好きとして運転士を目指したいが、この車掌さんのように、僕のような鉄道好きに喜びを与えられるようになりたい。車掌さん、本当にありがとうございました。

※ 読売新聞「気流U-25」 平成29年5月22日（月）掲載

激務の配達 思いやりを 2年女子

ニュースで宅配便の話題を目にする。指定時間に訪問しても留守ばかりで再配達が多くなり、配達する方が食事や休憩をとれないという。宅配の仕事の厳しい現状を知り、物を送る際には、もう少し注意が必要だと感じた。

今後は、自宅に送る時はお昼を避け、自分がいる時間を指定したい。知り合いに送る時は、家にいそうな時間を考え、配達の日を伝えるつもりだ。

配達に来てくれた方には「お疲れさまです」と声をかけたい。一人一人が相手を思いやることが大切だと思う。

※ 産経新聞「ひこばえ倶楽部」 平成29年5月22日（月）掲載

科学と人間らしさの両立を 3年女子

科学技術の進歩によって生活がますます便利になってきている。昔は大きくて動きも遅かったパソコンが、今では小さくて速いスマートフォンに取って代われつつあり、一人1台情報機器を持つ時代である。

つまり、私たちの「普通」は大きく変化しているのだ。すぐに知りたい情報を得ることができるし、連絡も取りやすくなり、この点では変化はとても良いことだと思う。

ただ、勉強しているときや、山や海など自然の中で遊んでいるときに、ふと考えることがある。科学技術の進歩によって得たものは大きいけど、その代わりに失ってしまったものもあるのではないかと。

メールなどの浸透によって、人間らしい言葉で直接会って交わす会話が減り、スマホなどの小さな画面をずっと見ているようなことが果たして私たちの「普通」でいいのだろうか。

科学技術と人間らしさのバランスが大切だと思う。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成29年5月28日（日）掲載

心肺蘇生講習に参加して 2年女子

先日、学校で「心肺蘇生」の講習を受けた。機械の使い方や人工呼吸法など私たちが講習で学んだことを実践すれば、人の命を守れるということを知り、命の大切さを改めて実感した。

ただ、私には疑問に思うことがあった。もし心肺蘇生が必要な人の近くに、心肺蘇生の方法を知っている人がいなかったらどうなるのだろう。よほど運がよくない限り、亡くなってしまはずだ。その場に心肺蘇生のできる人が一人でもいれば救われたはずの命が、救われないのだ。それはとても残念だと思う。

世の中に心肺蘇生の講習を受けたことのある人がどれだけいるのだろうか。でも心肺蘇生を必要とする事態はいつ起こるか分からない。講習を受けていなかっただけで、助かるはずの命も助からなくなってしまふ。いざとなったら誰かがやってくれるからと他人に押しつけるのではなく、積極的に講習に参加し、守れる命を全力で守ろうと思える人が増えるのが私の望みだ。

※ 東京新聞「若者の声」 平成29年6月1日（木）掲載

立ち止まって平和を考えて 3年女子

最近、小学2年生の弟が「ミサイル」という言葉を覚えた。ニュースになっている北朝鮮の発射のせいだろう。

人間は二度にわたって大きな戦争を起こしている。勝っても、手に入れられるのはお金だけなのに。その金額も、戦争で犠牲になった人たちの命よりはるかに安いというのに。なぜ戦争を起こすのだろう。

戦争は、どんな理由でもしてはいけないと思う。今まで、どこの国も同じ考えだと信じてきたが、近いうちに第三の悲劇が起きそうで、怖い。一度立ち止まって、考えることが必要だ。ミサイルを造る技術を、人を助けるために使ってほしい。一つの国を否定するのではなく、地球全体で考えて、時間をかけて改善していくことが大切だと思う。

※ 産経新聞「ひこばえ倶楽部」 平成29年6月5日（月）掲載

人に好かれる「3つの法則」 2年男子

人に好かれるか？この問いにノーと答える人はまずいないだろう。だが、現実には多くの人が好かれているとはいえない。なぜか。好かれる方法を知らないからだと思う。

自分なりに人に好かれる法則を考えてみた。クラスに一人はいる人気者を観察すると、共通点があることに気づく。①いつも笑っている②とにかく聞き上手である③だれとも平等に接する—の3点だ。この三つが無意識にできている人が人気者なのだろう。

だから、人気者ではなく、僕みたいにネットでしか親しい友達がない人たちは、この中のどれかが欠如しているか、すべてが足りないというわけだ。でも、諦めてはいけない。どこかが欠けているのなら、補えばいいのだ。笑っていない人は笑う、友達の話をよく聞く、だれとでも分け隔てなく接する。そう心がければ、人気者への道は開かれる。

自分も頑張ってみよう。

※ 東京新聞「ミラー」 平成29年6月8日（木）掲載

大縄跳び クラス一つに 1年女子

中学校に入学して初めての運動会が5月にあった。1年生がやる競技の中で、一つだけ私がやったことのないものがあった。それは大縄跳びだ。クラス31人全員が一斉に跳ぶもので、連続で成功させるには全員が心一つにする必要がある。私は、みんなにきちんと合わせることができるのか、とても不安だった。

最初のころは1回しか跳べなくて、悪い雰囲気になったことがあった。けれど、何回も練習していると10回、20回と続くようになり、ついに5分間で130回以上も跳べるようになった。連続で跳べたときには喜び合い、縄に引っ掛かってしまったときには励まし合う。そうしているうちにクラスの心は一つになっていった。

運動会当日。残念ながら、あまり良い記録を出すことができなかった。けれど、みんなで大縄跳びの練習をしたことで、記録以上に得たものがある。新しい友達ができただ。今まであまりしゃべったことがなかった子だったが、練習をしながら喜び合い、励まし合っているうちに、少しずつしゃべるようになったのだ。

大縄跳びをやったことで、私はみんなで協力することの大切さを学んだ。縄を回す人、跳ぶ人が、タイミングを合わせなければ跳ぶことできない。だから、心一つにした。クラスで協力することは今後、他のことをやる時にも当然、必要になるだろう。今回の運動会が成功したのは、みんなが成功させようと協力し、努力したからだと考える。協力することはとても大切なことだ。そのことを忘れず、今後もさまざまなことに取り組んでいきたい。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成29年6月9日（金）掲載

運動会で支えてくれた友達 1年男子

運動会本番。この日、僕が「いいなあ」と思った友達がいます。

クラス一番の課題だった大縄跳び。なかなかうまくいなくて、みんながいらいらしそうでした。そこに「ドンマイ！ドンマイ！次行こう」と、大きな声を張り上げる友達の姿がありました。その声は心の支えになりました。運動会前に、その友達は「みんなを応援の方でサポートしていきたいです」と言っていました。その友達は、両足を捻挫したため、運動会当日、組み体操以外の種目に出ることができませんでした。しかし、どの種目でも、大きな声でみんなを応援してくれていました。運動会が終わり、その友達は「勝ったクラスがあれば、負けたクラスもある。ほかのクラスの前では、あまり喜び過ぎないように」と言いました。私も彼のように、裏方でみんなを支えていく人になりたいと思いました。

※ 読売新聞「気流U-25」 平成29年6月13日（火）掲載

歴史背負う伝統芸能の魅力 2年男子

数多くの伝統芸能が、後継者不足で失われつつある。後世に残すため、若者に関心を持ってもらうことが大切だと思う。

私は能の学習会に参加し、実際の能面を着用して演じさせてもらった。初めは右も左もおもしろさも全くわからなかったが、上達すると長年の歴史を背負っているという実感がわき、充実した学習会になった。

伝統芸能の魅力は、そこに至るまでの歴史にあると思う。その歴史と責任を感じられる機会を増やすことで、関心をもつ若者も増えるのではないかな。

※ 東京新聞「若者の声」 平成29年6月22日（木）掲載

政治家の言動 誠実さ忘れず 2年男子

最近「大統領の陰謀」という映画を見た。ウォーターゲート事件という、アメリカ史上最大のスキャンダルを題材にした映画だ。

関わった政治家が、「われわれは一切関係ない」「報道は事実無根だ」とか「適切な判断、対応である」と言う場面があった。最近の日本の政治家の発言によく似ていると思った。自分たちにとって都合の悪い事を国民の目からそらすようにしているのではないかと。

政府内で大臣の失言も目立っている。それによって、多くの人が政治家に対する不信感を抱いている。政治家が私利を求めているのは絶対に善い政治はできない。政治は国民のためのものであると肝に銘じ、誠実に物事に当たってほしい。

※ 東京新聞「若者の声」 平成29年6月29日（木）掲載

みんなが団結 運動会大成功 1年男子

運動会が終わり、家に帰ったら父や母が「行進がきれいだったね」「組み体操かっこ良かったよ」などと話してくれました。僕はとてもうれしかったし、運動会でがんばって良かったなと思いました。

でも、全ての種目は自分一人の力だけでうまくいくものではありません。一人一人が指先まで意識してそろえることで、きれいになる行進。一致団結して形を作り上げる組み体操やソーラン節。審判や校庭整備など係の人たちの協力もあってこそ、運動会は成功したのだと思いました。

来年に向けて、僕はリーダーシップをもち、1年を支えてあげられる2年生になりたいです。今回学んだ「協力」「相手への理解」なども生かして、次回の運動会も成功させたいです。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成29年9月26日（火）掲載

職場体験で接客の基本学ぶ 2年女子

「お客様の買い物をする場所を借りて仕事させていただく」。職場体験初日、働くときに最も意識すべきことだと教わりました。

でも、スーパーで働いたことはないし、これまではお客の側だったので、その感覚が分かりませんでした。売り場に出て仕事をして、お店の人の動きを見るうちにその感覚がだんだん分かってきました。「お客様の買い物をする場所を借りて仕事をする」というのは、言い換えれば「お客様が快適に買い物できるように仕事をする」ということだと思います。仕事の途中で、お客様に声をかけられたらすぐに対応する。お客様の邪魔にならないように、移動する。そんな当たり前にも思える行動一つ一つの積み重ねが、お客様からの「信頼」につながっていくことを実感しました。職場体験で「接客の基本」を学ぶことができ、大変貴重でした。

※ 産経新聞「ひこばえ倶楽部」 平成29年10月9日（月）掲載

「気づきが職業」という教え 2年女子

先月、特別養護老人ホームで3日間、職場体験学習をさせていただきました。音楽療法でお年寄りといっしょに歌を歌ったり、食事をするお手伝いをしたり、入浴の準備をしたりと、貴重な体験ができました。

一番感じたことは「気づき」の大切さです。私たちを指導してくださった介護士の方は、「気づきが職業」とおっしゃっていました。

うまく思っていることを相手に伝えられないお年寄りも少なくないので、「この人は今、こうしてほしいのではないか」「これを持ってあげた方がいいかもしれない」…と、何事もいち早く気づいて行動することが大切だと教えていただきました。

実際にその方はテキパキと、常に何かに「気づいて」行動されていました。私も将来、働くようになったら、このように動けたらいいなと思いました。

あいさつや時間厳守の大切さも身にしみて分かったとても有意義な3日間でした。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成30年1月30日（火）掲載

電子書籍よりも紙の本が好き 1年女子

家族と一緒に過ごしている時、ふと「紙の本がいいか、電子書籍がいいのか」という話になりました。

父は、電子書籍の方が、読みやすいと言っていました。しかし、私と母は紙の本が読みやすくていいと主張しました。

私が、紙の本が読みやすくていいと考える理由はいくつかあります。紙の本の方が、本を読んでいると強く感じられるからです。また、紙の本は電子書籍に比べて、長時間読んでいても目が疲れにくいと思います。そのうえ、見開きの左右のページの厚みの違いで、読書の進み具合が一目瞭然に感じます。特に私は、新しい本のインキのにおいが好きです。それに、親が読んだ本を引き継いで読んでいると、その本の歴史を感じたりすることもできます。

だから、私は、電子書籍が普及する中でも、紙の本を大切に、丁寧に読んでいこうと考えています。

※ 読売新聞「気流」 平成30年2月7日（水）掲載

体験災害多い日本 自助の心構えを 2年男子

1月23日、群馬県の草津白根山の「本白根山」が噴火した。何の知らせもなく突然やってくる、自然災害の怖さを知った。実際、今回の噴火では死傷者が出た。

日本は環太平洋造山帯に含まれ、火山が多く、地震や津波など様々な自然災害に脅かされている。自然災害の犠牲者の遺族は悔しい思いをどこにもぶつけられず、苦しいだろう。

国民一人一人が、自然災害への意識をさらに高める。そんなことは当たり前だが、とても大事なことだと思う。

しっかりと意識をもって、地震が来てもたえられる家を作る。津波が来ても流されない場所に住む。こうしたことはできるはずだ。自分を守るのは最終的には自分なので、自助を意識した生活を心がけようと思っている。

※ 産経新聞「ひこばえ倶楽部」 平成30年2月19日（月）掲載

「撮り鉄」はマナーを守ろう 2年男子

昨年末、中央線に新型特急が登場して話題となった。そこで、旧型は今年春での引退が決まった。

僕は引退する車両を撮るため、中央線のある駅に行った。予想通り、たくさんの「撮り鉄」がいた。その駅はホームの端が良い撮影地なのだが、あまりの人の多さにためらった。

マナー違反があったら、危険かもしれないと思ったからだ。結果的にはそのようなことはなかったが、もし起きていたらと思った。

ネットで撮り鉄と入力すると、すぐにマナー違反と出る。黄色い線を出ての撮影、私有地への侵入、順番を守らないなど迷惑行為は数多い。他人への気遣いもせず、一般利用者の邪魔にもなっている。いつ負傷者や死者が出てもおかしくない。駅によっては「三脚禁止」や立ち番をして対応しているところもある。

ルールを守り、撮り鉄同士が思いやり、安心して撮影できる駅をつくっていくべきだと感じている。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成30年2月28日（水）掲載

電車で出産助けた人を尊敬 2年女子

先日、JR常磐線の電車内で赤ちゃんが生まれたというニュースを見た。偶然、隣に座っていた元看護助手の方が素早く的確に手助けをして、女性は無事出産できたという。普段電車に乗っていてこんな場面に出会うことはない。だからこそ私はこの看護助手の方の冷静な判断を尊敬する。

昨年学校で行った防災宿泊訓練を思い出した。訓練ではAED（自動体外式除細動器）の使い方、心臓マッサージ、人工呼吸など、突然人が倒れてしまった時に自分たちだけで命を救う方法を習った。命を救うには、予測できない事態であっても冷静で正確な判断をしなければならない。命の重みを感じた訓練だった。

今回、元看護助手の方を含め、乗客は出産した女性をみんなで応援したそうだ。応援は女性に大きな励みになったと思う。命の危険が迫った場面に出合った時に私も、この元看護助手の方のように、訓練で学んだことを含め、正確な判断をかけられるようにしたい。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成30年3月14日（水）掲載

絵本が伝える深いメッセージ 2年女子

先日、授業で絵本「100万回生きたねこ」（佐野洋子著）を読み、人生や幸せについて考えた。幼い頃に読んだ時とは違った視点から読むことができ、改めてこの本の良さを感じた。

猫が何回も生まれ変わる話で、命の大切さや生きていく上で大切なことが書かれている。命には限りがあるから1日を大切に生きなければならない。何より自分を支えてくれる家族や友人を大切にしなければならない。そのようなことをこの絵本は教えてくれた。

絵本は幼い頃に読んで終わりではなく、成長してもう一度読んでみる必要があると分かった。何度も読み返すことで、作者が伝えなかったメッセージなどが感じられると思う。

子どもに絵本を読み聞かせる大人も、まず自分が読んで作者が伝えたいことを読み取ることが必要だと思う。深く読んでみると、人生を見直すきっかけになるかもしれない。子どもも大人も絵本を読んで、絵本が伝えたい本当のメッセージを感じられればいいと思う。

※ 東京新聞「若者の声」 平成30年3月15日（木）掲載

百人一首通じ 家族が一つに 2年女子

私は百人一首にはまっていて母や姉に相手をしてもらっている。きっかけは、1月に学校で行われた百人一首大会だ。昨年、私のチームは2戦2敗という悔しい結果で、今年こそは1勝したいと思った。

冬休み中は必死に札を覚えた。分かる札がどんどん増え、休み明けの百人一首テストでは満点を取れた。次は、母と姉を相手に札を取る練習に励んだ。その結果、大会で1勝することができ、札を取った枚数では学年で10位になれた。

私がかこまでできるようになったのも家族のおかげだ。普段は部活や塾などでばらばらになってしまっている家族。しかし、一緒に百人一首をすることで一つになれたような気がした。一つのことを家族や友達と成しとげられたときが、私が幸せを感じる瞬間だ。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成30年3月17日（土）掲載

なぜ染めなければならない？ 1年女子

生まれつき髪の毛が茶色いのに、黒く染めるよう指導され不登校になったとして、女子高校生が訴訟を起こしたというニュースを見た。人間の肌の色や目の色、髪の毛の色はそれぞれ違うのだが、この学校は、日本人の髪の毛は黒いものだという何十年も前の考え方を、そのまま生徒に押し付けている感じがする。

私は米国に何度か滞在し、多くの人の肌、目、髪の毛の色が違うことを間近に見る経験をしてきたので、このような指導が今の日本で行われていることは、人権を無視していて悲しいことだと思った。日本は先進国の中でも人権への意識が低いと指摘されると聞いたが、このようなことをしているのでは仕方がないのではないかとも思った。

このことを知って、私は早く日本全国の学校が生徒一人一人の個性を大切に扱っていくようになり、髪の毛の色が違っただけではそれぞれの人の中身や本質は何も変わらない、ということをもみんなに伝えていってほしいと思うようになった。